



飯綱山 平沢利夫 画



第2820回会報

2021年(令和3年)10月19日(晴)

THE ROTARY CLUB OF NAGANO 長野ロータリークラブ

例会/毎週火曜日 12:30~13:30 ホテル国際21

事務局/長野市県町576 Tel.026-235-5493 Fax.026-235-4146

会長/中島克文 幹事/宮澤政徳 クラブ会報・雑誌委員/堀江三定

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

■司 会 : 橋爪貴史SAA

■点 鐘 : 中島克文会長

■ソング : 「信濃の国」

■ゲスト紹介 : 中島克文会長

- ・北信第一グループガバナー補佐 滝沢捷司様
- ・北信第一グループガバナー補佐幹事 倉石和明様

■会長挨拶 : 中島克文会長

10月9日(土)、長野ロータリークラブの親睦ゴルフ大会でしたが、コロナの影響もあり、有志親睦ゴルフ大会とさせて頂きました。当日はゴルフ日和で沢山の会員の方に出席頂き、本当にありがとうございました。また、親睦活動・家族委員会の澁谷委員長はじめ委員の皆様、計画から当日までの段取り、大変お疲れ様でした。優勝は日本生命の松本健志支社長です。おめでとうございます。長野京急カントリークラブの安藤社長には色々ご配慮頂き、本当にありがとうございました。

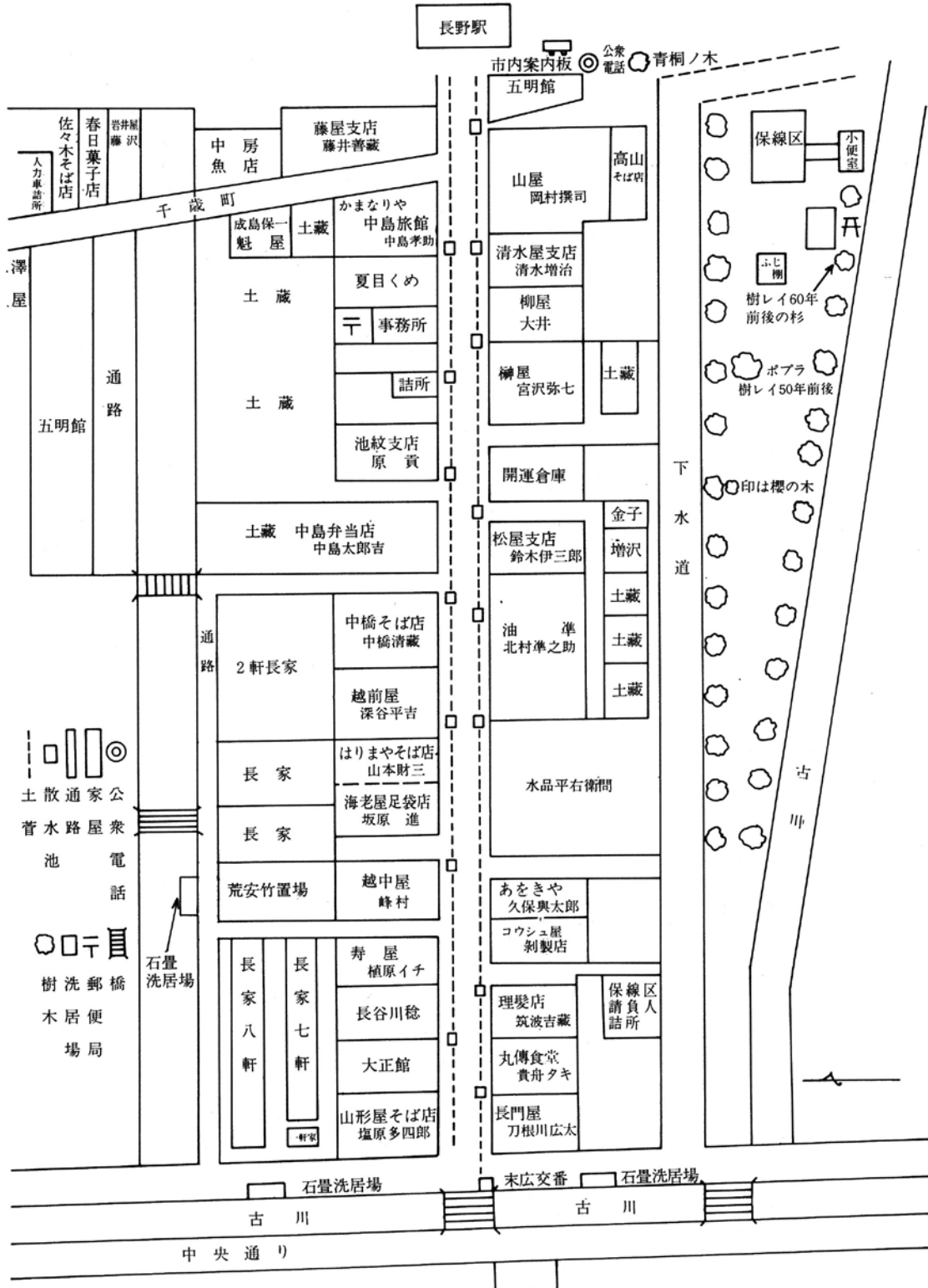
では私の話に入ります。国鉄の長野駅の開業に併せて、駅から放射状に三本の新しい道路が開かれました。前回お話しした通り、当時は長野停車場と呼ばれていましたが、ここでは長野駅として進めます。この三本の新道とは、駅と北国街道、善光寺への表参道となる中央通りを結ぶ第一線路、それから駅直結の貨物輸送路の第二線路、かつての花街・権堂を經由して善光寺を目指す第三線路です。このうち、第二線路はそのまま街の名称となって、今も二線路通りの名で親しまれています。つい最近まで日通関係の拠点がこの道沿いにあったのは、二線路が貨物輸送の道だった名残です。道が開かれた当時は、運輸会社、輸送用の馬を取り次ぐ中馬会社など、貨物に関わる会社がいくつも並んでいたようです。第三

線路は現在の千歳町通り、一線路と同様貨物輸送に関わる事業所が多く集まり、当初は輸送路としての性格が強かったようです。明治33年に、沿線が千歳町となり、三線路は千歳町通りと呼ばれるようになりました。三線路は地域の有力者が寄付を募って開通に至ったこと、また、沿線に花街があって伝統芸能が盛んだったこともあり、明治23年の開通時には地方としては珍しいほどの大々的な祝賀イベントが行われ、音楽や花火で大いに盛り上がったそうです。第一線路が現在の末広町通りに当たります。末広の縁起担ぎと東京上野駅前の末広町の賑わいに準えた町名で、石堂から分かれる形で町となったのは駅開業から20年後の明治41年になってからでした。第一線路は駅と北国街道を結ぶ道だったことから、この沿線には旅館、商店などが軒を連ねました。駅開業と新道開発に合わせ、善光寺界隈の旅館が続々と駅前に進出します。藤屋、五明館、扇屋、山屋、清水屋、池紋などの名前があります。資料の地図からも分かるように、駅前広場はごく狭く、五明館や藤屋旅館の建物が駅にすぐ迫った位置にあります。末広町で営んでいた中島旅館も進出してきた旅館の一軒で、明治25年頃に開業しています。数軒隔てて中島弁当店の名前もあります。地図に「かまなりや中島旅館」と記載されていますが、これには理由があります。明治から大正初めにかけて改札の開始や汽車の発車を予告するのは振り鈴(昔、学校の用務員さんが持って時間を知らせた、持ち手の付いた鐘)でした。その鐘の一つが駅前の中島旅館に預けられており、始発列車が出る時、駅員がそれを振って知らせたそうです。そのことから、中島旅館に「かまなりや」の愛称がついたようです。弁当を扱っていたことから、鐘を釜とした、いわば洒落だったのでしょう。初代の鐘は柄が折れて壊れたようで、当時の旅館主人だった中島太郎吉が少し小ぶりにあつらえて駅に寄贈しました。それが昭和の時代、仏閣

型だった長野駅の駅長室に飾られていました。さて、明治の末頃には一線路と二線路が合流するにあたり、現在の長野大通り、長野駅北交差点（駅正面）の辺りに数台の人力車が待機し、汽車の到着時間になると駅構内に乗り入れ、客待ちをしたと伝えられています。人力業者はもともと権堂花街を拠点にしていますが、駅開業に伴って新たに組合を作り、人力車駐車場とする土地を買ったり借りたりして、長野駅

前に進出したそうです。この時、人力車業の一人が親戚筋だったこともあり、中島家の当主中島孝助が保証人となって駅前進出を助けたそうです。昨今、人力車といえば観光用に運用するものを見るのがせいぜいですが、駅と街を結ぶ人々の足として人力車が走っていた当時の長野の街路や、車夫が集まる駅前の様子などを想像するとなんとも言えない風情を感じます。

明治40年頃の長野駅前の家並み



■幹事報告 : 宮澤政徳幹事

・他クラブ例会変更・掲示板をご確認下さい。

■出席報告 : 榎本佳一委員

本日の出席人員 66名 無断欠席者数 6名

出席率 57.4% 前々回訂正出席率 82.5%

■ニコニコBOX報告: 松本健志委員

・お祝い会員…14名 ・早退ほか…3名

合計 91,500円 累計 766,500円

■滝沢ガバナー補佐のお話

「ロータリーについて」

私はロータリークラブに入って25年になりますが、入会した時に言われた言葉があります。「何か言われた時にする返事は、『はい』、『イエス』、『喜んで』、この3つしかない」と最初に渾々と言われ、これがロータリークラブの伝統だと言われたので、今のこの役職も結局引き受けることになってしまったのが現実ですが、これも奉仕の一つなのかなと覚悟を決めています。お手柔らかにお願いします。



ロータリークラブは、色々な職業の中から政治や宗教に関係なくお互いの意見を広く許し合えるような人達が集まって、一つの親睦関係を作れないだろうかというのがそもそもの発足した理由です。自分の足りないところを補い合い、お互いにうまくやっとうまいというのが元々の趣旨だったのでと理解しています。お互いがよかったということで恩恵の輪がどんどん広がっていったのだと思います。しかし、仲間同士だけでいい思いをしているということ自体が、周りや仲間の中からも批判的な意見が出てきて、その反省から奉仕活動が出てきたと聞いています。ロータリー活動として、親睦と奉仕をどう両立させていくかは常に大きな議論を醸し出してきました。この解消策として、クラブは親睦と奉仕を主体とする、奉仕を主体とする部分としてロータリークラブの連合体を作ったらどうかというのがポールハリスの考えだったようです。その考え方は、1923年に決まった「決議23-34」、ロータリーの全ての実践活動に対する指針として、また、ロータリーの奉仕理念をロータリー哲学として確立された決議です。これがいまだにロータリーの精神的な支柱として残されていると理解しています。ただこの中では、あくまでも連合体は奉仕を主体とする連合体、各クラブの実勢はそれぞれ決して侵してはならないという

ことも、この決議の中に述べられています。

同じような奉仕活動をしているライオンズクラブとどう違うのか、私なりに理解しているのは、ロータリークラブはそれぞれの職業を通して奉仕をする人の集まりで、基本的には個人の奉仕の気持ちに重点が置かれています。結果として、団体として奉仕活動をするようになりますが、あくまでも個人の意志の集合体での奉仕活動です。これに対してライオンズクラブは、ロータリーの奉仕活動に飽き足らない人達が専ら奉仕活動を主体に行う団体を作ろうと発足した組織だと聞いています。ここでは、団体としてのライオンズの意志があって、個人としての行動は組織の中の活動の一部ということになります。I serve と We serve という考え方がよく言われますが、I と We の違いが両方の違いではないかと思えます。

ロータリーも21世紀に入って、それ以前とは大きく変わってきているように思います。職業分類という枠がありますが、以前の一業種一人という考え方はなくなりました。職業を通して奉仕をするという考え方は残っていますが、薄れてきています。また、例会出席は会員の大きな義務でしたが、例会そのものの回数も各クラブの裁量の余地が多く認められるようになり、出席に関してもかなり緩やかになってきています。最近では皆が一堂に会して例会をするのではなく、オンライン例会も推奨されてきていて、極端な話ではオンライン例会のみのクラブも認められるようになり、この2600地区にも信州友愛ロータリークラブというオンライン例会のみのクラブが発足しています。役員が1年ごとに交代するというワンイヤールールが原則でロータリーは活動してきていますが、今はそうした短期的なものより長期的な戦略が推奨されてきており、各クラブに対しても、長期戦略計画の作成が求められてきています。長野クラブでも今年度の中で戦略委員会ができ、これについて検討することになっているようです。昨今は、この戦略計画を前提とした行動計画を作って、それに乗っ取って色々な事業を実行することが求められてきています。来年開催される規定審議会では、現



行とは更に大きく組織が変わるのではないかとされています。現在の地区割りは解体して、新たにもっと大きな組織体になり、その中に地区カウンセラーが存在し、そのもとにガバナーが配置され、クラブの支援を行うという形のようなようです。こうしたことを考えると、RIのコントロールは今よりもっと強くなっていくのではないかと思います。

さて、今年度のRIの会長は、インド・カルカッタ・マハナガルロータリークラブ所属のシェカール・メーターさんです。今年のRIの活動テーマは「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」です。会長は「奉仕を通じて大きなインパクトをもたらすにはロータリーの会員基盤を広げる必要がある。そのためには現在120万人の会員を1年間で130万人にしましょう」を第一の目標として掲げています。「1人の会員が1人を入会させて下さい」という掛け声です。2番目は「ロータリー奉仕デーを開催して下さい」です。この活動を通して会員それぞれのロータリーへの思いを強くして欲しいということなのです。地域社会の中にロータリーの輪を広げて欲しい、もっとロータリー活動の存在感を高めて欲しいという願いです。3番目は女性の力の向上に力を入れ、未来の女性リーダーの成功に必要な手段を与えて欲しいと言われていますが、これはRI会長が考えていることと日本での解釈は若干ニュアンスが違う感じがします。RI会長が考えているのはもっと若年層を対象としたことで、日本のロータリークラブは成人した女性を主体として、その力をもっと有効活用しようとしていると理解しています。これを受けて、桑沢ガバナーは「繋がりを保ち、交流と奉仕を充実させよう」という地区活動方針を掲げています。繋がりの強化とは、会員同士だけでなく地域社会との繋がりも強くしていくことが大切で、一つの手段として「ロータリー奉仕デー」をぜひ実施して欲しいということなのです。2番目は女性会員の増強と役割の重要性です。女性の社会進出の機会や地位の向上を目指す取り組みは、女性自身が主体的に取り組むことが大切で、女性会員の増強による解決力を強化して欲しいという考えです。3番目は積極的な広報活動の強化です。ロータリーへの理解と入会希望者への正しい理解や動機付けを促進するための広報活動を積極的に推進することを掲げて、2600地区を運営していくことを表明しています。具体的な取り組みは8つほど挙がっていますが、クラブ計画書を見てご理解下さい。特にガバ

ナーが力を入れて頂きたいとお願いしていることは、地域を巻き込んだ形でのロータリー奉仕デーの実施と、オープン例会などを通しての会員増強です。会員増強をすれば大きな事業ができる、大きな事業をすることは世間の認知が高まる、世間の認知が高まれば会員が更に増える、というサイクルを大きくしていくことです。

昨今、情報交換をすることも難しい時代になってきていますが、どのようにこれらを補完していくか、一番考えられているのは通信手段を使ったりリモート会議です。直接会って話をするに勝るものはないですが、それでも顔が見られて話ができることも、何もしないよりはいいと思います。それによって本当に真剣な話ができるかといえば、若干疑問はありますが、これからは色々な面でのデジタル化は避けて通れないと思います。地区でも、クラブのデジタル推進のための研修会を計画していますし、この第一歩として『マイロータリー』へ登録をお願いします。登録して頂きますと、RIや地区の情報がかかり簡単に手に入ります。

今年度の地区大会はコロナ感染対策上、来年5月21日・22日に岡谷のカノラホールで開催します。例年とはだいぶ日程が異なりますが、多くの会員の皆さんが一堂に会する機会ですので、ご参加をお願いします。また、IM会員セミナーは長野クラブがホストで、11/27ホテル国際21で開催します。60周年記念を前にしてIMのホストをして頂くのは大変ですが、よろしくをお願いします。IMの講師には、NHKのニュースキャスターをし、10月からはテレビ朝日の報道ステーションのキャスターを務めている大越健介さんをお願いしています。衆議院選挙も終わった後なので、これからの日本の情勢について色々な面白い話が聞けるとと思います。土曜日の午後ですので、多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

